

中華圏、春節挟んで大型連休



●中国語と英語が書かれたカードを使って講習を進める外国人向けのスキー教室＝神戸市灘区六甲山町、六甲山スノーパーク
 ●六甲山スノーパークに新設されたイスラム教徒向けの礼拝所

神戸観光千客万来

中華圏の旧正月「春節」（8日）を挟んだ大型連休を迎え、神戸の観光施設にも中国などからの観光客が押し寄せている。人工雪を楽しめる六甲山スノーパーク（神戸市灘区）はここ5年で外国人団体客が約7倍に急増。今季から外国人対象のスキー教室や、イスラム教徒向けの礼拝所も設けた。神戸の夜景を楽しめるレストラン船も右肩上がりの状況が続く。一方で、6日に台湾南部で地震が発生し、受け入れ側の各施設も現地の様子を気遣う。（24面参照）

同パークが1月に始めた外国人向けのスキー教室。雪が珍しい台湾や香港からの旅行者に、スキー板の付け方や滑る姿勢を教える。講師は中国語の説明文や写真付きのカードを首から下げ、簡単な英語とジェスチャーで意思疎通を図る。

同パークは昨季、外国人団体客が約1万7千人と過去最多に。今季も昨年12月5日の開業から1月末までに約4800人が訪れた。「教室はスキー場の安全確保にもつながる」と広報担当の野口竜太郎さん(24)。外国人の初心者が

「昨季、屋外で礼拝を始める姿を見て対応の必要性を感じた」と野口さん。友人と訪れたイスラム教徒のラフィダ・ビンティ・モハマドさん(23)は「礼拝所があると便利で来やすい」と笑顔だ。春節を挟む6～14日の9日間だ

同パークが1月に始めた外国人向けのスキー教室。雪が珍しい台湾や香港からの旅行者に、スキー板の付け方や滑る姿勢を教える。講師は中国語の説明文や写真付きのカードを首から下げ、簡単な英語とジェスチャーで意思疎通を図る。

イスラム圏からの旅行者にも配慮する。昨年12月には手足を清めるシャワー室付きの礼拝所を新設し、レストランでは豚肉やアルコールを使っていない料理に表示を付けた。



六甲山スノーパーク

レストラン船

外国人急増、スキー教室も夜景が人気、中国語も対応

神戸港を周遊するレストラン船「ゴンチエルト」は2015年度、1月末までに外国人約1万1千人が乗船。12年度の1年間と比べ約2・2倍に増えた。団体客の約9割は台湾人で、夜景を楽しめるデイナーの利用がほとんど。下船前の放送で中国語を流すなど対応を進める。

神戸港を周遊するレストラン船「ゴンチエルト」は2015年度、1月末までに外国人約1万1千人が乗船。12年度の1年間と比べ約2・2倍に増えた。団体客の約9割は台湾人で、夜景を楽しめるデイナーの利用がほとんど。下船前の放送で中国語を流すなど対応を進める。



4カ国語の表記で外国人観光客を案内する土産店＝神戸市灘区、六甲おみやげ館

春節の前後は、外国人客を普段の約1・5倍と見込む。広報担当の杉岡優さん(32)は「個人で神戸へ来た際、再び乗船してもらえようなおもてなしをしたい」と意気込む。

「ルミナス神戸2」も13年に約6600人だった外国人客が、15年は約7100人に増加した。

(田中宏樹、小尾絵生)